令和元年度
事業報告

特別養護老人ホームかがやき

ショートステイかがやき

小規模多機能型居宅介護かがやき

令和2年5月作成

目　　次

≪特別養護老人ホームかがやき・ショートステイかがやき≫
１、組織力の強化
（１）ユニットリーダーを中心としたチームケアの充実
（２）働きやすい環境の整備
（３）職員の安定
（４）特養ユニット報告
（５）多職種の報告

２、看取りケアの充実
（１）看取り研修の実施・受講
（２）利用者、ご家族への再アセスメント
（３）看取りケア期間の取り組み
（４）看取り関係のソーシャルワークの充実
（５）精霊流し

３、地域との交流
（１）地域へ開かれた研修・イベントの開催
（２）自治会活動への参加
（３）運営推進会議の充実

４、入所稼働率の維持
・令和元年度　特別養護老人ホームかがやき実績
・令和元年度　ショートステイかがやき実績

≪小規模多機能型居宅介護かがやき≫
１、サービス内容の充実
（１）通いサービス
（２）訪問サービス
（３）事故件数“ゼロ”を目指す

２、ご家族、地域との連携（認知症支援、栄養管理、看取り）
（１）認知症の在宅支援
（２）栄養指導、介護教室の開催
（３）看取りの支援（眠りスキャンの活用）
（４）地域包支援センター、民生委員との連携

３、稼働率の維持

４、職員の働き方への対策
（１）子育て支援
（２）得意分野を活かした業務の分担

特別養護老人ホームかがやき
令和元年度　事業報告

≪施設理念≫

安心と穏やかな生活

≪基本方針≫

１、　人としての尊厳を重視し、利用者およびご家族の想いを大切にします
２、　共に暮らす喜びと家庭的な雰囲気をつくります
３、　いつも同じ、なじみの環境をつくります
４、　利用者が安心して穏やかに普通の日常生活を最期まで送れるように支援します
５、　地域にひらかれた交流の場をつくります

≪介護方針≫

１、　専門性に基づいた介護ケアと、医療との連携による看取りケアを実施します
２、　入居者の方が、普通の日常を送れるよう、さりげない介護を実践します
３、　各ユニットの特色を活かし、細やかな支援と個別支援の充実を図ります
４、　在宅生活への復帰を可能な限り支援します
５、　利用者およびそのご家族を支える包括ケアを実践します

令和元年度　事業報告（特養かがやき・ショートステイかがやき）

１、　組織力の強化

２、　看取りケアの充実

３、　地域との連携

４、　入所稼働率の維持

１、 組織力の強化

（1） ユニットリーダーを中心としたチームケアの充実

①施設長、副施設長とユニットリーダーとの情報共有を徹底し、管理職間の状況把握や協力に努める。（管理職会議：月１回、リーダー会議：月１回）
迅速な情報共有の為、メールや LINE を活用する。

②施設長又は副施設長のユニットラウンド（毎日）
職員の様子を観察し、状況の把握をする。

③各リーダーとユニット職員との面談（年４回）
職員の日々の評価を行い、指導する。また、評価を結果だけでなく理由や成長に繋がるようなフィードバックをする。

④新人職員との面談（施設長又は副施設長）：入社初日、２週間、１か月、３か月）

結果・課題

①各リーダーが情報の共有に迅速に対応した。リーダーグループ LINE や、管理者チャットワーク等を活用し、利用者の情報だけでなく事務連絡についてもスムーズに全員に伝達できるようになった。
②施設長がユニットをラウンドし、短時間でも職員と会話することで状況や様子の把握に努めた。気になることは各リーダーに確認し情報の共有を行った。
③面談という形では年４回は実施できていないが、ユニット職員と一緒に業務をする中で、少しずつ時間をつくり話している。中には課題の多い職員に対し、年４回以上の面談をした者もいる。
④入社時の面談についてはオリエンテーションという形で実施した。その後はラウンド時に声をかけ、必要時に話をした。各リーダーからの依頼で面談を実施することもあった。

（2） 働きやすい環境の整備

①眠りスキャンの活用
・常時モニターによって利用者の状態の把握ができる。
・利用者の安全確保と職員の負担軽減。
利用者の状態に合わせた設定で、睡眠をできる限り妨げない介護に努める。
眠りスキャンを確認することで訪室回数の軽減や、危険の察知が早期にできる。
・眠りスキャン活用の工夫。
心拍数や呼吸数、睡眠状態について、主治医や家族への報告の際に活用。
・看取りケア時の職員の不安軽減、判断材料。

②年間５日以上の有休取得

③子育て家庭への支援
・大型連休等、保育園や学童が長期休みの場合に、職員が勤務できるよう施設内での保育を実施。

結果・課題

①眠りスキャンの活用に慣れ、パソコンやタブレットを確認することが自然とできるようになっている。呼吸数や心拍数を注意してみることで発熱等の体調不良の早期発見や、主治医への報告が早い段階でできていると感じる。看取りケア時の呼吸数の把握については特に役に立っており、居室で過ごすご家族への配慮が可能になることや、職員の負担軽減になっている。
②有給休暇の取得については、管理表を作成し、各ユニット単位で勤務表作成時に希望を取り、計画的に取得している。最終的に事務が管理し取得漏れがないようにチェックしている。
③大型連休対策については、保育園、学童保育が休みになり職員が出勤できない事が予測されたため、長与町の子育て支援事業「ファミリーサポート」に相談し、施設内で保育をして頂いた。その結果、業務に支障がでることなく職員も安心して働くことができた。

（3） 職員の安定

①働き方の選択ができる多様な求人内容
・夜間専門職員や時間限定での求人。
・介助内容別の雇用（身体介助専門・家事援助専門）
・障害者雇用、外国人雇用。

②求人活動
・ハローワークへの求人更新手続きを確実に行う（１回／３ヶ月）
・高校・専門学校・大学への訪問による求人活動（毎月）
・各種学校からの実習生の受け入れ

③応募者に伝わる施設紹介の工夫
・施設見学用の資料（パンフレット・パワーポイント）の作成と活用

④新人職員を交えた新人教育計画の作成と、教育の見直し。

結果・課題

令和元年度　離職率：11.1%　（1ヶ月未満の離職も含む）

①入浴専門（介護福祉士）、早朝（２時間、60 歳以上）の非常勤職員を採用し、常勤職員の手薄な時間を充足させることができた。入浴専門の介護職については、入浴介助が毎日あるショートステイに配置し、利用者の利用日に合わせて入浴支援ができている。また早朝の非常勤職員は、初任者研修を受講された 76 歳男性もチャレンジされ、朝食準備、食事介助、片付けまでの簡単な家事援助をできるようになった。
障害者雇用は、新規の採用はしておらず、１名の雇用継続４年になる。施設に慣れ他職員との関係も良好で、職員勉強会やユニット行事等にも参加している。
②長崎純心大学にて他法人との合同面談会の実施、季節ごとのハローワーク面談会への参加等を行った。職員が充足してきたこともあり、求人を止めることもあったが、施設の PR 活動

として SNS を活用し写真や動画で情報を発信した。
③施設見学や面談会においては、資料を作成し施設の中身がわかりやすいように努めた。また次年度は施設の日々の様子がわかるようなパンフレットに新しくする予定である。
④新人職員の指導計画については、ユニット単位でのものに止まり、施設全体の見直しができなかった。次年度は研修委員会を活用し、マニュアルの整備を行いたい。

（4）特養ユニット・ショートステイ報告

＜陽の郷＞

○目標　・利用者・家族等、誰でも安心できる明るく快適な環境を作る。
・利用者一人一人の個性を尊重し、個々の好きな場所で安心して過ごせるように支援する。ユニット設えの充実をする。

結果・課題

○ソファやテーブル席等、リビングで過ごす際の「自分の場所（定位置）」が決まり、新しく入所した利用者でも落ち着いて過ごすことができたと思う。テーブル席で裁縫をするのが日課にもなっている方もおり、居室以外での居場所があることは、生活の質の向上にもつながると感じた。
●ユニットの設えを充実するため、まずは片付けを行ったが、必要な物（棚や飾り等）を配置できておらず課題が残った。
◎片付けや模様替え等、好きな職員がいるので、得意分野を活かしてもらい今後も設えの充実を図りたい。
◎リーダーが、ユニットリーダー研修を受講したことで、ユニットケアへの取り組み意識が変わり、２４H シートの作成を計画的に進め始めるができた。
◎家族参加の行事を実施することができたので、大きな行事でなくても気軽にご家族が参加できる企画を考えていきたい。

＜彩の郷＞

○目標　①利用者が穏やかに健康を維持できるよう支援する。
②多くのイベントを通して利用者と家族のコミュニケーションづくりの場を提供する。
③利用者に寄り添い、信頼される支援を目指す。
④職員間のコミュニケーションを図り、「報・連・相」の徹底をする。
（小さな気づきも伝達・共有する）

＜取り組み・行事＞

５月：年号変更のお祝い会（職員手作りランチ会）
７月：夏祭り
１０月：運動会（ご家族参加）
外食会（天ぷら）
１２月：第２回家族会（鍋パーティー）
１月：ランタンドライブ
３月：バイキングランチ

結果・課題

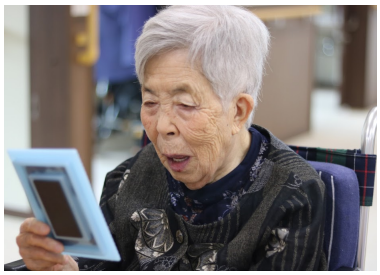
○利用者の健康を維持できるよう、毎朝 10 時からテレビ体操を実施。強制ではないが、朝食後にリビングテーブルに集い会話をしながら体操の時間を待ち、その後はお茶を飲むことが生活リズムとなっている方もおり、職員が協力しながら続けることができた。
口腔ケアを丁寧に実施し、肺炎予防に努めた。重度の方の口腔ケアについては、小さなブラシやスポンジブラシ等、数種類の用具を使用し実施した。その成果もあり肺炎での入院は 1 名だった。

○外食会（天ぷら）は、利用者の「揚げたての美味しい天ぷらを食べたい」という言葉から決まった。さらに「お化粧はしないの？」という職員の言葉で利用者が張り切ってお洒落をして出かけた。この事をきっかけに、ユニット内にサロン（メイク・ネイル等）をすることが次年度の計画と繋がった。
家族参加の行事を行い、たくさんのご家族の参加があった。12 月に行った「家族会」では 10 家族中 9 家族の参加があり、それぞれの家族の交流もできた。若い職員が年間行事の写真をスライドショーにまとめ皆で鑑賞会を行い、ご家族から「色んな行事をして、色んな所に連れて行ってもらって有難い。」との言葉を頂いた。

●利用者とのコミュニケーションについて、業務優先になりがちな場面があり、利用者の声にもっと耳を傾ける時間が必要だったのではないかと課題が残った。

◎常勤職員が 5 人になったことで、業務的には少々余裕が出ているため、意識的に利用者とのコミュニケーションを増やし、信頼関係を濃いものにしたい。

◎褥瘡や潰瘍の処置に対して、多職種との連携を図ったが、今後も更に小さな気づきや情報の共有を確実に行いたい。

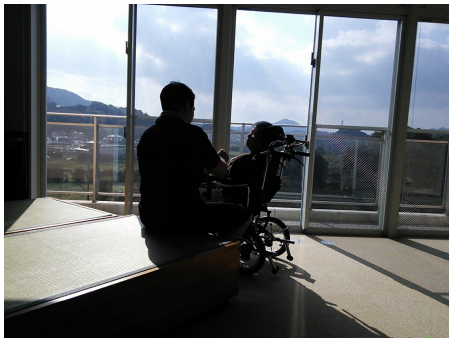


＜結の郷＞

○目標　・ユニットの設備、業務内容を見直し、働きやすい環境を整える。
・利用者・ご家族から再アセスメントすることで、看取りへの理解を深める。
・医療的な健康管理の知識を学び、利用者の体調変化や看取りケアに対応することができるようになる。
・新人職員の育成。（新人職員と一緒に研修計画を立てる）
・他ユニット、他職種との連携に努める。

結果・課題

○ユニット会議にて業務内容の見直しを行った。入浴日や人数を調整し、午後から入浴のない日を１日追加することで、職員も利用者と一緒にテーブルを囲みお茶を飲む等、コミュニケーション時間を増やす事ができた。
○看護と一緒に、ご家族に再アセスメントを実施した。施設での生活の最期をどのように考えているか、ご家族に話を伺うことにより、互いに看取りに関して理解を深めることができた。
○２名の看取りでは、主治医、看護と連携を密にし、利用者の体調変化を見逃さず、柔軟に対応することができた。また、それをご家族へ常に報告し安心して頂けるよう努めた。
●新人の配属があったが、事前にユニット内での研修計画を立てることができず、経験者であったこともあり、具体的な計画がないまま業務を始めてしまった。見習い期間中は職員が必ずつき業務の把握を行ったが、新人職員の経験や技術に合わせた計画の作成が課題となった。
○他ユニットとの共同の行事「運動会」「精霊流し」を行い、看護や栄養士等とも連携し行事を盛り上げることができた。
◎ご家族が面会に来られた際、業務中であることが多くお話をできないことが多かったため、次年度の課題となっている。
◎職員の知識や技術の差があり、統一した支援ができていないことがあったので、ユニットで介護技術を互いに確認し習得していくことが必要。



＜ショート＞

○目標　・ご利用時に楽しく過ごせる時間を提供する為、体操やレクリエーション、手作業の充実を図る。（インターネット等を活用し、飽きのこないレクリエーションの提供をする）
・眠りスキャンを活用し、利用者の安全確保に努める。また、夜間の状態を把握しご家族や医療機関との連携をする。
・職員の介護技術の向上を目指すため、研修参加を積極的に行う。
・職員間の「報・連・相」を徹底し、利用者の“忘れ物ゼロ”を目指す。

結果・課題

○毎日インターネットを活用し、色々な種類の体操で体を動かすことを１日２回（朝・夕）行

った。歌番組も好評で、インターネットであれば昔の曲をすぐ観ることができるので、利用者に好まれた。「今日は良かった。ここは良いね。」という言葉を頂いている。手作業を好む方には、個別に貼り絵等の準備をし、利用者の気持ちに合わせすぐに取り組めるよう努めた。また作成したものを掲示したり、写真をご家族にお渡しし喜ばれた。

○眠りスキャンを活用し、利用者の主治医へ情報提供をした。眠りだけでなく、電子カルテ上の排便や食事量等と合わせ情報提供することで、関連性や総合的な判断材料となり、服薬調整をして頂くことができた。

●職員の外部研修参加状況は積極的とは言えなかったが、施設内研修には全職員が参加し、「楽しく学ぶことができた」等の感想が多くあった。特に、オムツの研修では「自分のオムツ交換の仕方や感覚を見直すことができたので、すぐに活用したい」という意見が多く、新商品や最新技術の習得に前向きに取り組めた。

◎職員間の「報連相」がうまくいかず、伝達事項の漏れがあった。特に利用者の荷物チェックの漏れは、“ゼロ”にすることが難しくご家族に迷惑をかけることもあり、次年度も課題となった。

（５）多職種の報告

１）看護職員

（異常の早期発見と予測）

利用者の体調変化を見逃さず、全身状態の観察に努め、状態の変化を予測し考えながら嘱託医との連携を取る。

（誤薬の予防）

薬の準備・確認・配薬を確実に行い、誤薬がないようにと努める。また、内服や処置等の変更についても介護職への伝達を確実に行い、間違いや漏れの予防に努める。

・施設内に設置する医務室に日常の健康管理を図るための器具備品を配置し、嘱託医の指示に基づく最小限の医薬品を常備し、利用者の健康管理に当たる。

○利用者に係る病歴、疾患等のデータを把握し、必要時に即時対応できるよう日々整備する。

○緊急搬送等の緊急時の責任者として看護職員を置く。夜間オンコール等の対応に当たる。

○医師の診断等により看取りケアの取り組みを行なう場合、介護職員のサポートをする。医療的な面で、ご家族への説明や相談を受け、主治医と連携する。

（年間業務）

・利用者の健康診断（胸部レントゲン撮影）・・・１２月
・血液検査・・・年２回
・インフルエンザ予防接種・・・・１１月
・肺炎球菌ワクチン接種・・・嘱託医と相談し対象者に案内。
・職員の健康診断後の指導・・・年２回

（研修関係）

・介護職員の喀痰吸引の実地研修を実施する。

結果・課題

●看護が配薬する際に間違い（日時等）があり、介助者が服薬前に見つけたり、そのまま誤薬に繋がることがあった。すぐにダブルチェックを徹底した。また、服薬介助の際にも介助者が声に出して確認することを徹底するよう各ユニットに再確認した。
○足の切断とまで診断された重度の潰瘍を根気強く処置することで奇跡的に完治できた。利用者本人の健康状態も関係したとは思うが、介護職も含め自信に繋がった。
○介護職や栄養士との連携がうまくでき、情報共有ができていたため、その時の一番良い対応ができていたと思う。また、嘱託医との連携もスムーズだった。
○看取りについて慌てることなく対応できた。オンコール対応や看取り期における付き添い等、介護職の不安の軽減やサポートもできたと思う。
◎年度末ではあったが、介護職員の喀痰吸引研修の実地研修を開始できるよう準備ができた。

2）機能訓練指導員

・**複数体制での配置**をすることで、福祉施設の機能訓練指導員としての役割を確立できるようにする。
・ST 又は OT を配置し、利用者の拘縮予防に努める。
・車椅子のシーティングをチェックし、常に良い状態で座位が保てるようにする。

結果・課題

○年間通して機能訓練指導員を複数配置することはできなかったが、機能訓練指導員の指導のもと看護、介護も拘縮予防に努めた。
○施設内勉強会にて「シーティング」について学び、座位について理解を深めた。
●小さな褥瘡ができるとベッド上では良くなるが、車椅子に乗ると再度悪化するというケースがあったため、次年度もシーティングについて更に充実が必要。

3）管理栄養士（栄養マネジメント）

①安心・安全な食事の提供
・衛生的な服装での調理、厨房内の温度・湿度管理を徹底し、食中毒予防に努める。
・利用者様一人ひとりの嚥下機能に見合った食形態の検討を行う。

②栄養マネジメントの実施
入所者全員を対象として
・栄養スクリーニング（3 ヶ月ごと）を実施
・栄養アセスメント・モニタリングを実施
（高リスク：2 週間ごと、中・低リスク：1 ヶ月ごと）

③毎月の給食会議の実施
・3 ヶ月に 1 回、委託先の栄養士も施設内の給食会議に参加して頂く。

④行事食の提供
・月に 1 回行事食の提供をして季節を感じて頂くとともに、食事を楽しんで頂けるような内容にする。
・「カレーの日」を設け、職員と利用者が一緒に食卓を囲むことで、利用者に家庭的な雰囲気を感じて頂く。

⑤利用者様の“思い出食”に関するイベント実施
・利用者や職員、ご家族からの聞き取りより得た“思い出の食”について一緒に再現し、利用者やご家族の思い出作りや地域交流イベントとする。

結果・課題

①・食材加熱時の中心温度測定を徹底し、食中毒を発生させることなく安全な食事の提供に努めた。
・ミキサー食の方が安全に食事を行うことが出来るよう、使用する固形化粉末の種類について検討を行った。それまで提供していたものよりも食べやすく栄養価も高い食事の提供につなげることができた。
・施設内の勉強会において「嚥下調整食分類」について説明し、個々に適したとろみの付け方について共有した。

②・栄養スクリーニング（3ヶ月ごと）
・栄養アセスメント・モニタリング
（高リスク：2週間ごと、中・低リスク：1ヶ月ごと）を実施した。

③毎月実施はできなかったが、2 ヶ月に一度実施し献立の内容等について話し合いを行った。その内容については給食業者とも情報を共有し、4 ヶ月に 1 度給食業者の栄養士にも給食会議に参加していただくことで、ご利用者様や職員から出た意見について直接話し合う場を設けることができた。
会議参加者に行事食への意見をいただき、その後の行事食の内容に反映した。また、ミキサー食の試食を行って食べやすさなど検討し、作り方を改善した。

④年間 11 回の行事食の提供を行った。節句にちなんだ料理や旬の食材を使った料理を提供し、季節の感じられる食事を味わっていただくことができた。
以前給食会議で意見が出たバイキングや選択食については実施ができなかった。

⑤年間9回のイベントを開催し､そのうちご利用者様の思い出食に関わるものは5回であった。その 5 回のイベントは利用者様に“思い出の食事”を聞き取り、作り方だけでなくその食事に関する思い出話などをお聞きすることができた。イベントとして調理・試食をすることで地域の方やご家族と交流し、作ること・食べること楽しんでいただくことができた。

⑥その他：12 月の餅つき大会における「食べやすい餅つくり」や、旅するカレー研究所のイベントに関連したスリランカカレーの提供などを行った。（本部　学校事業より報告）

２、看取りケアの充実

（1） 看取り研修の実施・受講

・施設内外において実施される看取り関連の研修への参加（全職員）
・研修受講後のフィードバックの習慣化
・ご家族を対象とした看取りに関する勉強会の実施（年２回）

結果・課題

○施設内研修として「私達の看取りの振り返り」を行った。特養ユニットがそれぞれに看取りを経験しており、各職種がその看取りについての思いや反省、課題を話し合う場となり有意義な学びとなった。
○看取り研修後は勉強会等でフィードバックを実施した。その中で、看取りマニュアルの必要性や内容等を共有し次年度の作成計画へ繋がった。
●ご家族対象の研修は実施できなかった。看取りの際に「これからどのように最期を迎えるのでしょうか」との質問はよく頂いたので、次年度は開催したいと思う。
◎各ユニットが看取りを経験したことにより、看取りが身近なものとして認識され研修への意欲も向上したように感じる。次年度も看取り研修には各職員が参加できるようサポートしたい。

（2） 利用者、家族への再アセスメント

・人生の最期を念頭においた利用者、ご家族への再アセスメントの実施。
・再アセスメントの実施により、新たな情報の収集とそこから導き出されるプランの作成

結果・課題

○看取り関係担当の看護師を中心に、ユニットリーダーと協力して全利用者の再アセスメントを実施した。「人生の最期をどのように迎えたいか」という内容が主になるものだったが、どのご家族も真剣にお話し頂き、「今回の話をきっかけに家族と話をしてみます」という声もきかれ、有意義なものになった。
○改めてお話を聴くことで、入所時には聞き漏れていたお話を聞くことができ、「最期」という内容からか施設に遠慮して言えなかった希望もあり、支援に活かすことができた。また、話を重ねることでご家族との信頼関係も深まったような感じがあった。

（3） 看取りケア期間の取り組み

・利用者、ご家族への声かけや、近況報告。
・変化を見逃さないための介護・看護の連携。
・眠りスキャンの活用（呼吸・心拍の変化）
・全職員への周知。（全職員で見送るという意識での声かけや訪室）

結果・課題

○看取りケアに入ると、居室への訪室回数やご本人への声かけは意識的に行い、面会に来られたご家族へは必ず近況報告を行った。その中で、ご家族には見えないご本人の状態低下を看護から説明し、理解を促した。毎週の嘱託医の往診時にご家族にも声かけ、直接、主治医に質問や不安を聴いて頂くよう努めた。
○その日の状態の変化を見逃さないよう、介護と看護が一緒に観察し、情報を共有することに努めた。特に夜間は夜勤者が介護職員のみになるため、昼間のうちに気になることは嘱託医に確認する等、早めの対応を行った。
○眠りスキャンは、看取りケア中の勤務者にとって、安心して業務ができるものとなっている。看取りの最期では特にうまく活用できたと思う。心拍数と呼吸数の変化を居室の外で確認できるため、ぎりぎりまでご本人とご家族の時間を大切にし、変化しだしたところで訪室することができた。容態の変化はご家族にはわかりにくいことが多く、職員から伝えることでご家族の覚悟もできたと思う。
○「看取りは全職員で」という事を職員に伝え、看取りケアに入った事を施設で周知し、ご本人や家族にお声かけすることを取り組んだ。看取りに携わったことのない職員からは「何と声をかけたら良いかわからない」という質問もあったが、これまでの感謝や本人の頑張りを言葉にしたら良いと話し、他ユニット、多職種の職員が訪室してくれた。ご家族からは「たくさんの職員さんが声をかけに来てくれて嬉しかった」との言葉を頂いた。

（4） 看取り関係のソーシャルワークの充実

・**看護師１名を看取り関係の相談員として配置。**ユニットリーダーと協力しご家族の心のケアに当たる。
・入所時からの「看取り」に関するご紹介（リーフレットの活用）
・段階に応じた看取りに関する説明
・看取り前のカンファレンスの実施。利用者、ご家族、主治医と、施設の全職種が参加することで、施設全体で共通認識のもと看取りケアに入る。

結果・課題

○看取り関係の相談員（看護師）を配置し、ユニットリーダーと協力してご家族とのコミュニケーションを充実させた。ご家族も誰に相談すれば良いかが明確になり、話しやすくなったのではないかと感じた。相談員が看護師ということもあり、医療的な面でもご家族への説明がスムーズに行えた。
○看取り前のカンファレンスは定着し、必要であれば２回以上開催することもあり、ご家族の意志確認と不安の軽減、職員の心構えにつながったと思う。このカンファレンスを機に職員も家族も看取りケアへと入ることが認識できるようになった。

（5） 精霊流し

・前年に看取りをした利用者の供養の意を込め、職員全員で精霊流しをする。職員手作りの船を作り、ご家族や地域の方にも声をかける。

結果・課題

○看取りをさせて頂いた利用者を「自分達の精霊船で送りたい」、という職員の声から、初めての取り組みとして「精霊船」を作成した。段ボール小さな船ではあったが利用者も一緒に作成しとても喜んで頂いた。船にのせる利用者家族にも連絡し許可を得て「ありがとうございます。本人も喜んでいると思います。」と言葉を頂いた。

◎今回は初めてということで地域の方にはご案内しませんでしたが、作成回数を重ねるごとに船が少しずつ大きくできるようになればと思う。

３、地域との交流と連携

（1） 地域へ開かれた研修・イベントの開催

・施設で行う研修やイベントを地域に案内し、職員や利用者との交流を促す。

・チラシや SNS を使い、施設での研修やイベントを地域へ発信をする。

結果・課題

○施設で行うイベント（栄養イベント等）は自治会の回覧板に案内チラシを入れてもらい、地域の方の参加があった。少人数で利用者、職員、ご家族、地域住民との交流ができた。

○写真や文章が得意な職員が SNS 担当となり、日々の生活の様子やイベントを発信してくれた。ご家族がそれを観てお礼のコメントを載せてくれることもあり。

（2） 自治会活動への参加

・町内一斉清掃や、鬼火焚きなど、自治会行事に参加し、地域にある施設としての役割や交流を図る。

結果・課題

○町内一斉清掃は事前に自治会長へ手伝う所がないか確認し、施設周辺を依頼されたので職員１０名程で実施。町民運動会では、自治会より依頼あり男性職員が「綱引き」に参加させて頂いた。また、公民館の定例会に声をかけて頂き、施設 PR をさせて頂いた。

（3） 運営推進会議の充実

・各ユニットリーダーの参加
・民生委員以外にも地域住民の参加を検討し委員の拡大をする
・他事業所との合同運営推進会議の開催

結果・課題

○各ユニットリーダーが運営会議に参加し、自ユニットの報告をできるようになり、参加しているご家族からのご意見も直接聞くことができるようになった。
○民生委員以外の参加枠の拡大はできていないが、特養利用者の参加があり、利用者の意見を外部の方にもお伝えできたことは良かったと思う。
○年度末の開催は町内他 2 法人との合同開催を実施。他法人の委員様にも当法人の取り組みを知って頂く機会となり、また、種別の違う施設の取り組みを知ることもができた。

4、入所稼働率の維持

＜計画・目標＞

＜特養＞

目標稼動率	96.0 %
設定稼働率	94.0 %
設定平均介護度	4.0

＜ショート＞

目標稼動率	90.0 %
設定稼働率	80.0 %
設定平均介護度	3.0

○入院による空室を最低限度にするため、医療機関との連携を積極的に図る。また、空床利用でショートとの連携を図る。
○ご家族への状況説明を丁寧に行い、入退居の理解を求める。
○嘱託医と連携し、疾病の早期発見・早期治療に努める。

結果・課題

令和元年度　特別養護老人ホームかがやき　実績

月	介護度	介1	介2	介3	介4	介5	合計(名)	延べ人数	稼働率(%)	待機者数(名)
4月	男			1	1		2	861	99	37
	女		1	1	14	11	27			
	平均要介護度	4.2					29			
5月	男			1	1		2	863	96	38
	女		1	1	14	11	27			
	平均要介護度	4.2					29			
6月	男			1	2		3	835	96	39
	女		1	1	16	10	28			
	平均要介護度	4.2					31			
7月	男			1	2		3	865	96	40
	女		1	1	15	9	26			
	平均要介護度	4.2					29			
8月	男			1	2		3	881	98	40
	女				17	9	26			
	平均要介護度	4.2					29			

９月	男			1	2		3	835	96	40
	女				16	10	26			
	平均要介護度	4.3					29			
１０月	男			1	2		3	899	100	40
	女				16	10	26			
	平均要介護度	4.3					29			
１１月	男			1	2		3	849	97	40
	女				16	10	26			
	平均要介護度	4.3					29			
１２月	男			1	2		3	854	95	40
	女				16	10	26			
	平均要介護度	4.3					29			
１月	男			1	2		3	881	98	41
	女				16	10	29			
	平均要介護度	4.3								
２月	男			1	2		3	839	99	41
	女			2	14	10	26			
	平均要介護度	4.2					29			
３月	男			1	1		2	886	98	41
	女			2	15	10	27			
	平均要介護度	4.2					29			

令和元年度　ショートステイかがやき　実績

月	介護度	支１	支２	介１	介２	介３	介４	介５	合計(名)	延べ人数	稼働率(%)
４月	男				1	3	4		8	273	91
	女			1	3	3	1		8		
	平均要介護度	2.9							16		
５月	男				1	3	5		9	297	96
	女				3	2	2		7		
	平均要介護度	3.1							16		
６月	男				1	3	2		6	258	86
	女			1	4	3	2	2	12		
	平均要介護度	3.0							18		
７月	男			1	1	4			6	270	87
	女		1	2	2	5	2	2	14		
	平均要介護度	2.8							20		
８月	男				1	3	2		6	306	99
	女			1	3	4	3	2	12		
	平均要介護度	3.3							18		
９月	男				1	3	1		5	285	95
	女			1	3	3	3	2	12		
	平均要介護度	3.1							17		
１０月	男				1	3	1	1	6	282	94
	女				4	2	3	2	11		
	平均要介護度	3.2							17		
１１月	男				1	3	1	1	6	291	94
	女			1	3	4	4	2	14		
	平均要介護度	3.2							20		
１２月	男				1	1	3	1	6	241	78
	女			3	1	4	3	1	12		
	平均要介護度	3.1							18		
令和２年１月	男			1	2	3	3		9	282	91
	女		1	1	3	3	4	1	13		
	平均要介護度	2.8							22		

2月	男					2	3		5	270	93
	女		1	1	3	4	2	1	12		
	平均要介護度	3.0							17		
3月	男					2	3		5	295	95
	女		1		2	4	4	1	12		
	平均要介護度	3.2							17		

＜特養＞

目標稼働率	96　%
実　績	**97　%**
平均要介護度	4.2

＜ショート＞

目標稼働率	90　%
実　績	**92　%**
平均要介護度	3.1

＜特養＞

○入院者：延べ 10 名　　入院日数：延べ 141 日

○看取り：５名

○退所から次の入所までの期間を 1 週間～10 日とし、空室をできる限り短く調整をおこなうことが定着し、ユニットリーダーも意識できるようになった。

＜ショート＞

○地域のケアマネージャーと互いに無理が言えるような良好な関係を築くことができている。12 月に入院者 3 名、定期利用者の他施設（老人保健施設）への入所により稼働率の低下がみられたが、その後は 90%台に回復することができた。

○ケアマネージャーより「介護、看護の連携が良いのでしょうね」、「医療管理の必要な方でもお願いしやすい。」と評価を頂き、「ショートステイで元気になっている。」とご家族からも嬉しい言葉を頂いた。

◎栄養士が実施するイベントには、毎回数人の利用者に参加頂いた。ユニットでの行事、イベントが少なかったので、外出、買い物、季節のイベントお願いしたいとの意見も頂いたので、次年度に取り組みたい。

小規模多機能型居宅介護かがやき
令和元年度　事業報告

１、サービス内容の充実
２、ご家族、地域との連携（認知症支援、栄養管理、看取り）
３、稼働率の維持
４、職員の働き方への対策

事業所理念 ：『我が家を舞台に、24時間365日、安心できる生活』

１、サービスの内容の充実

（1） 通いサービス

・健康増進や、リハビリに繋がるような軽運動、手作業等の充実。
・職員が認知症に対する知識を再度習得することで、利用者に対する支援に反映する。
・県内外の他施設の見学や実習をし、自施設のサービスに生かす。

結果・課題

○健康増進やリハビリに繋がるような軽運動、手作業を実施した。昼食前に嚥下体操、空き時間に集団体操を実施し、体を動かす機会を持った。毎月色紙を使い、利用者と壁画を作成し毎月の季節やイベントの理解を促した。
○長与町主催の認知症研修に参加し、スタッフが認知症に対してのケアについて学ぶ機会を持った。
●他施設の見学や実習をする時間や機会が持てず、実施することができなかったので次年度の課題としたい。

（2） 訪問サービス

・利用者やご家族の必要性を考え、ご希望がなくともご提案することで、在宅生活を１日でも継続できるよう支援する。
・訪問件数２００件／月を目指す　（訪問体制強化加算　１０００単位／月）

結果・課題

○毎日の服薬管理ができない独居利用者が二人おり、朝１回のお薬を渡し飲んで頂く訪問を実施した。ごみ出し、入浴、買い物、掃除等日常生活全般に見守り・介助が必要な利用者の生活のフォローを行った。
○訪問件数は、年度後半に二人透析利用者の入院が続いたため、訪問件数 200 件/月を毎月継続することは困難であった。利用者の重度化に伴い、通いと訪問を組み合わせ月曜日から日曜日の毎日の訪問をする利用者は増えた。

（3） 事故件数“ゼロ”を目指す

・誤薬事故が０件になるよう、看護職、介護職が連携し、配薬の工夫や確認の徹底をする。

結果・課題

○服薬前に 2 名でチェックを行い、配薬間違えのないようにした。通い、泊りが日々入れ替わるため、職員の伝達ミスで誤薬事故が発生しないよう対応者の記録とその確認の徹底をした。

2、ご家族、地域との連携（認知症支援、栄養管理、看取り）

（1） 認知症の在宅支援

・ご家族の負担軽減の為のマネジメント
・自宅から行方不明になった場合の捜索体制の構築
　自施設内の連携
　他法人との協力体制
　地域包括支援センターや介護保険課との協力体制
　地域住民との協力体制

結果・課題

○ご家族負担軽減のために泊りや訪問の回数をご家族希望に合わせて対応するようにした。また、施設での認知症状について説明し、専門医の再受診に繋げるようにした。
○自宅から行方不明になった認知症の方の捜索態勢の構築については取り組みまでつなげることはできなかったが、今年毎年１～２回自宅から行方不明になる方の事例が実際にあり、職員間の連携で 30 分以内に本人を町内で確保することができた。

（2） 栄養指導・介護教室の開催

・管理栄養士との連携で、ご家族に向けた栄養指導や、高齢者向けの食事の作り方教室を開催。自宅でも誤嚥に注意した食事の提供ができるよう支援する。
・自宅介護の負担軽減の為、介助方法やオムツの選び方、当て方の教室を開催。

結果・課題

●今年度はご家族向けに上記教室の開催を実施できなかったが、訪問時にご家族に介護の仕方をお伝えし、必要だと思われる福祉用具の紹介、選定を一緒に行った。

（3） 看取りの支援（眠りスキャンの活用）

・訪問を主に在宅看取りの支援をする。２４時間体制でご家族の不安や緊急時の支援をする。
・在宅ベッドに眠りスキャンを設置し、ご家族の安心と職員との連携を強化。臥床時の状態について主治医との連携をとる。

結果・課題

○小規模で看取り援助の事例はなかったため、在宅ベッドに眠りスキャンを設置することはなかった。

（4） 地域包括支援センター・民生委員との連携

・地域にある困難課題に対する連携。
・成年後見制度利用時の連携
・緊急時の協力

結果・課題

○地域包括支援センターからのご紹介と同時に民生委員の方とも連携をさせて頂き、在宅生活をギリギリまで支援したケースを経験した。小規模だけでは支援が困難だったと思うが、民生委員と近所の方の存在が大きく利用者との信頼関係にもつながった。このケースでは、夜間の緊急対応もあり、その際も民生委員、地域包括支援センター、小規模が協力して対応した。

○地域包括支援センターより経済的に課題のあるケースをご紹介されたが、地域包括支援センターの社会福祉士の方が生活保護や成年後見人制度の面は担ってくださり、社会福祉協議会がそれまでの金銭管理を、小規模で生活を支え、良い連携が取れたことで、利用者の生活も安定することができた。

3、稼働率の維持

○登録者２４名の維持

●目標稼働率：95%（23 名）　●設定稼働率：90%（22 名）

・特養の待機者の利用の推進
・他施設との連携の充実（関連法人、その他施設）
・入院時の医療機関との連携
・居宅介護支援事業所や医療機関との連携・情報交換。

結果・課題

＜実績＞　稼働率実績　　82　%（平均　19.8 名）

令和元年度　小規模かがやき　実績							
月	登録者数	通い件数	宿泊件数	訪問件数	新規	終了者	相談件数
４月	２１名	２０名 (280 件)	１０名 (114 件)	１２名 (199 件)	1	1 (死去)	2 件
５月	２１名	１９名 (344 件)	１０名 (143 件)	１０名 (209 件)	1	0	2 件
６月	２２名	２０名 (325 件)	９名 (125 件)	１３件 (194 件)	1	0	1
７月	２３名	２０名 (349 件)	９名 (145 件)	１４件 (224 件)	1	0	1
８月	２３名	19 名 (275 件)	９名 (115 件)	１１名 (151 件)	0	２名	１件

9月	２１名	１８名 (257 件)	８名 (98 件)	１１名 (163 件)	0	１名	１件
１０月	２１名	１９名 (279 件)	１２名 (198 件)	８名 (108 件)	2	3	1
１１月	１９名	１６名 (250 件)	７名 (99 件)	１０名 (191 件)	0	1	2
１２月	１７名	１５名 (243 件)	１１名 (203 件)	６名 (97 件)	0	1	0
１月	１６名	１４名 (223 件)	１１名 (166 件)	６名 (84 件)	0	0	2
２月	16名	14名 (227 件)	10名 (158 件)	6名 (102 件)	0	0	0
３月	18名	15名 (274 件)	10名 (158 件)	9名 (138 件)	2名	1名	1件

○登録者 24 名の維持　目標稼働率９５％（23 名）設定稼働率９０％（２２名）の達成はできなかった。今後、関連事業所、居宅介護支援事業所や病院への情報提供を定期的に行っていく。

４、職員の働き方への対策

（1） 子育て支援

・夜勤専門職員の配置
　子育て中の職員が、夜勤をしなくても無理なく勤務できるようにする。
・急な休み（子供の体調不良等）に対し、業務に支障が出ず、また職員の負担なく休むことができるよう、それを見越した職員の配置を検討
・子供を連れての出勤ができる体制を目指し、先駆的な取り組みをしている法人を見学を実施。

結果・課題

○夜勤をできる職員を 5 名配置し対応しており、夜勤専門職員の配置をせず対応できた。
○介護職員 8 名（うち短時間 2 名 15 時まで・16 時 30 分まで）体制で 3：1 が確保されている。日勤者の数も確保されており、急な子供の体調不良での休みにも対応できている。
○子供を連れての出勤をしている法人の管理者の方をお呼びし、講演をいただいた。職員が全員参加し聴くことができ、とても参考になったとの感想があった。

（2） 得意分野を活かした業務の分担

・通い・訪問・宿泊の３つの業務に関して、各職員の得意分野を活かせる業務分担を検討する。

結果・課題

○送迎・訪問・レクなど職員の得意分野を活かして担当を振り分けている。また利用者の相性にも合わせた形で一番に担当する職員を配置するなど工夫した。利用者からも「手芸であれば○○職員さん」「運動なら○○職員さん」等、指名されることもあり、職員本人のやりがいにもつながっている。

【地域交流関係】

民謡コンサート（4 月）

長与中　体験交流（6 月）

七夕コンサート（7 月）

長与第二中　職場体験（7 月）

岳童太鼓（8 月）

保育園児（9 月）

つんなむコンサート（9 月）

マイタウン・ビジネススクール（9 月）

昭和セブンティズ　コンサート（12 月）

※学校事業（地域包括支援センター）のイベントや地域交流については、本部（事業報告）にて報告。

【研修関係】

○施設内研修

令和元年度		
4	31 年度　事業計画説明	中山施設長
	職場でのハラスメントについて	法人本部　村上局長
5	「食中毒予防について～手洗いチェック～」	西彼保健所、感染症予防委員会
6	消防訓練（夜間想定）	防火管理者
7	高齢者虐待・身体拘束について	村田副施設長
8	「アンガーマネジメント」について	GH ぎんなん　施設長　小柳美保子様
9	県指導監査報告	中山施設長
	事故防止研修「移乗介助とボディメカニクス」	村田副施設長
	３法人管理職研修	ながよ光彩会法人本部
10	消防訓練（昼間想定）	防火管理者
11	オムツについて	ユニ・チャーム
	シーティング（車椅子の座り方）について	特養めざめ　作業療法士　中島様
12	インフルエンザ予防と対策	感染症委員会
1	「私たちの看取り」看取り振り返り	山口 NS、中山施設長
2	「施設の防犯対策について」	時津警察署
3	事故対策、身体拘束・虐待防止、オンコール対応	事故委員会、村田副施設長、看護

○外部研修参加状況

日　付	研　修　名	研　修　内　容	参　加　者
6/30	認知症の人にやさしいまちづくりの始め方 in 福岡	認知症の人にやさしいまちづくりを進めるには。	畑村竜太
7/2	「対話の壺」　中尾クリニック	対話スキルを学びみんなで考える 90 分	井手好子
8/23	ユニバーサルマナー検定 in 長崎	障害とは何か､優しいおもてなしとは何か	山口莉奈
8/31	令和元年度生涯教育研修会	食と栄養に関する基礎知識､根拠に基づいた栄養管理	小柳智恵子
10/5、6	地域でよろこばれる「座位」のグループフィットネス	10 分運動、アクティブレストの効果	小柳智恵子
10/15～	NGO 等向け事業マネジメント研修	JICA 九州事業マネジメント研修（計画立案､モニタリング･評価）	中山聡子、戸崎千尋
10/16～	令和元年度認知症介護実践者研修	認知症介護に関する実践的な研修	江原麻希美
11/19	外国人技能実習制度における養成講習	技能実習責任者講習	中山聡子、戸崎千尋

11/19	外国人技能実習制度における養成講習	生活指導員講習	中山聡子、戸崎千尋
12/22	医療的ケア教員講習会		新海智佐子、中山聡子
12/14	長崎県栄養士会医療協議会第 2 回スキルアップ研修会	共通言語化した学会分類の理解と食事への展開	小柳智恵子
1/21	第 10 回長崎県認知症グループホーム大会	「ぼけますから､よろしくお願いします｡」映画上映、監督トークショー	貞松徹、茂田淳子、新海智佐子、中山聡子、池田いずみ、伊藤弘子、浦田俊子、比留澤文佳、田中香菜子、茂田菜央、川下博、平野春奈、平井久美子、山口莉奈
1/24	看取り研修実践編	看取りケアの体制整備と利用者の安らかな旅立ちに向けて	井手好子､吉野邦子、山口香里、中山聡子
2/4	令和元年度認知症対応向上研修会	認知症と老年期の精神疾患､ものとられ妄想について考える	田中優子
2/20、21	認知症対応型サービス事業管理者研修	認知症対応型サービス事業所を運営､管理していくため必要な知識、技術の習得	江原麻希美
2/25、26	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	利用者登録に対する居宅サービス計画及び小規模多機能型居宅介護計画を作成するために必要な知識、技術の習得	江原麻希美

令和元年度　事業報告書

（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

社会福祉法人

ながよ光彩会

法人理念

私たち、社会福祉法人ながよ光彩会は、人のためにできること、地域のためにできること、社会のためにできることを念頭に、その人らしい人格と人権を尊重し、住み慣れた地域の中で安全で安心した豊かな"かがやき"のある暮らしの実現に向け、地域の方と共に考え、共に歩んで参ります

法人の運営方針

1. 利用者およびそのご家族に対して、親切で、優しく、まごころをもって寄り添う、さりげない介護を目指します
2. 明るい家庭的な雰囲気を大切にし、いつでもどこでも誰にでも感謝の気持ちで笑顔を絶やさない職場づくりに努めます
3. 全ての職員が、安心して働ける環境を整え、良好な人間関係を築き、法人の使命を果たすための人材育成に努めます
4. 地域の人々に共感と信頼を得られる社会福祉事業を行うことにより、地域の人々の希望と信頼に応え得る良好な施設運営を目指します
5. 地域における福祉の"拠り所"として、関係機関と連携を密にとり、地域社会の持つ力を尊重し地域福祉の発展に寄与します

法人本部

1．現状の ICT 環境を最大限活用できる体制を整える

（1）眠り SCAN（パラマウントベッド）

令和元年度については、眠りスキャンのさらなる活用のため、パラマウントベッドによる勉強会を２回実施しました。睡眠レポートを活用し、ドクター、ご家族、ケアマネージャーとの情報共有に役立てることができています。また、睡眠情報だけでなく、呼吸数や心拍数の活用もできるようになってきており、ご利用者様の看取り時には、眠り SCAN による心拍数低下にいち早く気づくことができ、迅速に対応することができました。

（2）クラウドサーバへの移行

令和元年 9 月 25 日より介護保険ソフト Quick けあを、株式会社ファティマ管理のデータセンター上（クラウド環境）で稼働する QUICK けあシステムへ移行が完了しました。
これに伴い、万が一の災害時にも自社でサーバーを保持していないため、データが喪失するリスクが軽減されます。
また、ネットワークに繋がる環境であればどこにいても、設定済みのパソコンやタブレットを使用して Quick けあの情報を確認することができるため、中尾先生とのすばやい情報共有にも役に立っています。

（3）共有フォルダを One Drive（クラウド）へ移行

マイクロソフトの提供する企業向けオンラインストレージサービス「One Drive for Business」を活用しています。これにより、日報情報や打合せ議事録など最低限共有が必要なファイルについて、管理者、事務職員でファイルを共有することができるようになりました。今後は、各ユニットが管理しているファイルも含めてデータ管理のルールを作成し、データ管理を徹底していきます。

（4）情報伝達ツール（CHAT WORK）の導入

社内用情報伝達ツールとして、「CHAT WORK」というビジネスチャットのシステムを導入しました。様々な用途に合わせたグループを作成し、職員がプライベートで使う LINE と区別し、職員同士の情報共有に役立てている。また、誰がいつまでに何を行うのか管理、共有する機能「タスク管理」があるため活用しています。「ビデオ・音声通話」機能もあるため、コロナウィルス感染予防のため事業所間でのビデオ会議を行うなど、情報共有にも役立っています。

2．職員採用のために取り組むこと。

（1）リクルート用パンフレット制作

長崎市内のデザイン事務所デジマグラフにパンフレット制作を依頼し、施設の特徴的なエピソードや、雰囲気が伝わるイラストが入ったインパクトのあるパンフレット作成を進めています。

（2）就職合同面談会への参加

令和元年度から初めての取り組みとして、社会福祉法人長崎厚生福祉団高校及び、社会福祉法人南高愛隣会と合同で、主に大学、専門学校（令和２年３月卒業）採用就職面談会を計４回実施しました。この面談会を通して、大学生１名のアルバイト採用に繋がりました。

また、その他、長崎県社会福祉協議会での就職合同面談会、こころ医療福祉専門学校での面談会、ハローワーク長崎での就職面談会にも参加し職員の採用につながっています。

3．ひととまちとくらしの学校（公益事業）

（1）介護職員初任者研修開講に向けた準備

令和元年度については、介護の入門的研修である介護職員初任者研修の指定申請を行い、現在長崎県からの認可待ちの状態です。開講予定期間は、令和２年５月 14 日～令和３年１月 13 日までの８ヶ月間で、初年度は当法人職員を対象として実施する予定です。

（２）介護福祉士実務者研修の開催

令和元年度は、７月１日～１２月３１日の６ヶ月間で７名が受講し、６名が修了することができました。（※１名は休学の申し出があったため来年度受講予定）

（３）教育訓練講座の指定申請

実務者研修通信学科について、令和元年１０月に厚生労働省へ一般教育訓練講座の指定に向けた申請を行いました。しかし、指定を受けるには実務者研修の実施実績が足りず、指定を受けることができませんでした。令和２年１０月の指定申請であれば、実施実績を満たすことができるため、来年度再申請を行う予定としています。

（４）夢・物語の支援～豊かな明日への対話～の開催について

令和２年３月１４日（土）長崎県立シーボルト校にて、「夢・物語の支援～豊かな明日への対話～」をテーマとした事例発表会及び映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」の上映＆信友監督トークショーを開催する予定でしたが、新型コロナウィルスの影響により、やむを得ず開催を延期することとなりました。今後の日程は未定ですが、新型コロナウィルスの状況により開催時期を決定します。事例発表については、長与町内の他の施設、事業所にも参加の声掛けを行い、グループホームながよ、ぴーぷる長崎の２施設からも事例発表を行う予定としています。

５．地域公益事業の展開（ノルディックウォーキング、地域住民向け勉強会、イベント）

令和元年度は、地域交流センターかがやきにて、ノルディックウォーキング教室、管理栄養士による料理教室、筆ペン教室、スマホ・タブレット教室、など様々なプログラムを地域の方に向けて開催してきました。リピーターの方が増え、デイスクールの存在を知ってもら

い、徐々に参加者が増えてきている状況にあります。現在は、新型コロナウィルスの影響によりイベント開催を自粛しておりますが、今後いつでも再開できるよう企画の準備を進めています。

地域交流センターかがやきで実施したイベント、研修については下記の通り報告します。

<table>
<tr><td colspan="4">令和元年度</td></tr>
<tr><td>月</td><td>日</td><td>イベント名</td><td>主催</td></tr>
<tr><td>4</td><td>2</td><td>ノルディックウォーキング in ながよ
（毎月２回開催）
※第１火曜日ロングコース経験者対象
※第３木曜日ウォーキング教室＆ショートコース（初心者対象）</td><td>令和元年度開催数：２３回</td></tr>
<tr><td>4</td><td>13</td><td>リトミック音楽教室（毎月開催）</td><td>Smile Music 廣田奈穂子</td></tr>
<tr><td>4</td><td>18</td><td>民謡コンサート in かがやき</td><td>長崎北ロータリークラブ
長崎県民謡保存普及会</td></tr>
<tr><td>4</td><td>21</td><td>おはぎ作り教室</td><td>かがやき管理栄養士</td></tr>
<tr><td>4</td><td>23</td><td>筆ペン教室</td><td>GH ながよ職員浦川氏</td></tr>
<tr><td colspan="4"> </td></tr>
<tr><td>5</td><td>22</td><td>スマホ・タブレット教室</td><td>畑村竜太</td></tr>
<tr><td>5</td><td>23</td><td>甘酒づくり教室</td><td>かがやき管理栄養士</td></tr>
<tr><td>6</td><td>8</td><td>郷土料理教室（ちょこ焼き）</td><td>かがやき管理栄養士</td></tr>
<tr><td colspan="4"> </td></tr>
<tr><td>7</td><td>17</td><td>饅頭づくり</td><td>かがやき管理栄養士</td></tr>
<tr><td>8</td><td>22</td><td>冷やし中華づくり</td><td>かがやき管理栄養士</td></tr>
<tr><td>8</td><td>24</td><td>ユニバーサルマナー検定</td><td>株式会社ミライロ</td></tr>
</table>

9	26	水ようかん作り教室	かがやき管理栄養士
10	19	郷土料理教室（長崎ごま豆腐）	かがやき管理栄養士
11	15	郷土料理教室（芋の粉団子）	かがやき管理栄養士
12	2	介護福祉士模擬試験対策講座	学校事業部
12	25	餅つき大会 （喉に詰まりにくいお餅プロジェクト）	かがやき管理栄養士

12	30	こざかなくん ぶり解体ショー	こざかなくん

1	23	旅するカレー研究所（スリランカカレー）	流しのカレー職人 松永美和氏

2	17	練り切り作り教室	かがやき管理栄養士

その他

令和元年度に法人内で行われた研修については、下記の通り報告する。

法人内研修			
月	日	研修名	講師
6	10	管理職研修 眠りスキャン勉強会	パラマウントベッド
7	12	管理職研修 眠りスキャン及びマットレス勉強会	パラマウントベッド睡眠研究所 竹村氏
11	6	選ばれる職場環境整備 ～全従業員の物心両面の幸福を目指して～	社会福祉法人愛生館 理事長 小林清彦氏
12	10	デイスクール特別講義『ママたちと作った介護のかたち』	講演：MUKU 代表 佐伯氏